

## 第2回教育大綱検討委員会 議事概要

開催日時 平成30年10月29日(月) 13:30~15:30

会 場 能楽の里文化交流会館2階 小会議室

### 1 開 会

### 2 あいさつ

### 3 意見交換

#### 委員長

前回のご意見いただいた5つの柱について、様々な実践例をもとにしながら、より深いものにしていきたいと思う。中学校の取り組みや具体例、課題等をお聞きいただきたい。

#### 中学校長

5つの項目に分けて、これまでの取り組み例を説明する。

『小規模な地域における利点を活かす』取り組みの「個に応じた指導の充実」では、ティーム・ティーチングを行っている。「全員参加型の活動」では、陸上の大会や駅伝などに、全生徒が参加している。一人ひとりの負担は大きいが多様な立場や役割を自然に経験できている。

『小規模な地域の学校の不利な点を克服する』取り組みとしては、異学年との合同活動や他校（芝商業高校）との交流を行っている。

『少人数の集団でのより良い人間関係づくりと周りの大人の子供との関わり方』への取り組みは、国体ボランティアやマラソン伴走ボランティアなどボランティア活動を通していろいろな人との関わり方を学んでいる。ピア・サポート活動は、学級での集団づくりに関する取り組みで、子ども同士で共に伸びようとする学級づくりを行っている。小学校でのレジリエンス教育は、しなやかさのある強さ、プラス思考、ポジティブな考えを身に付けていこうとする主旨で研究会において検討している。

『地域の人材や環境・文化・産業を子供の教育生かす』取り組みでは、「まち人授業」で池田町の宝物に関する授業や池田追分や能楽教室などの体験学習を行っている。

『子どもが自ら成長していく』ための取り組みでは、主体的・意欲的な授業や子どもたちが楽しく学習できるような様々な取り組みを行ってきた。社会の一員としての体験をするキャリア教育は、自分が将来、社会の中でどのような関わりをするのかを考える

スタートの学習として行っている。以上が中学校での取り組みである。

課題は2つあげられ、幼児期から常に同じ仲間と一緒にいるためお互いを知り過ぎていて、本当の自分を出せない部分がある。もう1つは部活動で、人数が少ないため、他の部活動の子どもの協力を得て試合に参加した。しかし、多様な考え方もあり、本来放課後は自分の好きな活動をする時間であるので、部活動の運営は今後の課題と考えられる。

#### 委員長

それでは、「学校が小規模な地域にあることの利点は何か。それを一層生かすにはどのような取り組みが考えられるのか。」について、意見を述べていただきたい。

#### 委員

利点は子ども同士の縦のつながりが充実してくることである。どう生かすかという、上級生が下級生の面倒をみるなどの全員が参加できる活動があると、みんながお互いに助け合うことに生かせると思う。

#### 委員

小規模な地域にあることの利点とは、教員や地域の人から見て利点かもしれないが、子どもから見たら、嫌なことでも全員がしなければいけないなど、子どもにとって何が利点なのかわからない。負担にもなっているかもしれない。「嫌」ともいえるような環境になっていけばよいと思う。大人としたらマンツーマンで教育を受けられる良い環境といえるが、子どもにとってみれば大変な面もある。見えない所に居たいという時間も必要であろう。

#### 委員長

大人の視点、子どもの視点で違うという意見に、なるほどと思った。子どもの道がふさがった場合には、助けてあげる受け皿をつくらなければならない。

#### 委員

そうすれば、利点が利点になると思う。どこかで息抜きができるような場所をつくってあげるのが大事だと思う。

#### 委員

複式学級には教育の原点があり、子どもの文化が育つと聞いていた。特に複式は、子どもたちだけに任せる時間があるので、子ども同士で受け継いだものがあり、子どもの文化が育っている。苦しいときもあるが、長い目でみると子どもの力となると信じ

ている。小さな学校は全てが見えてしまうことも事実である。教員も様々な思い・葛藤を胸に向き合っていたと思う。幼小中で意見交換を図るなど連携していくことが大事である。

#### 委員

教育も大事であるが、安全も大事である。学校は、部活が終わってからの帰りの通学路を、どういう道を走っているのかを分かっているのかなと思う。外灯が切れていて道路が暗く、危ないところもある。学校も確認して、町と連携して対応してほしい。

#### 委員

外灯は区長に相談すれば対応してくれる。

#### 委員

稲が育たないから消していると聞いたが、稲も大事だが、子どもの安全も大事だと思う。

#### 委員

大きい学校と小さい学校を比較するものがあって初めて、池田の良いところ、悪いところが見えてくる。今の子どもたちは、池田の子で、池田のことしか知らないのも、そんなに不利に思っていないと私は思っている。子どもの修学旅行の行程表を見たが、物凄く中身が濃くて、大変充実していたのは小規模な学校の利点だと思う。大きな学校での修学旅行と比較して、内容の差を子どもに伝えている。子どもたちに、当たり前ではないことを伝える必要がある。

#### 委員

私は不利には思っていない。比べるものがない、比べる状況ではないと思っており、大きくなってから分かればよいと考えている。また、意見が言えないではなく、面倒くさいから言わないのだと思う。1クラス2名の教員体制や少子化により家族が少ないなど、子どもに目が行き届き過ぎ、子どもたちが気を抜くところがなく爆発してしまうところが今の中学校にあるのではないと思う。それが今出ていないから平和なだけで、そこが心配なところである。部活動に対しても、教員側が考えている部活動のあり方と子どもが思っているのと違っているところも捉えられているのかなと思う。

#### 委員長

部活動の捉え方が変わったのか。

## 事務局

今までは、全員どれかの部活動に入る指導であったが、今年の春からは、学校外の活動も認めるなど、強制しない取り組みを行っている。

## 委員長

部活動に関しては、中学校として非常に大きな課題でもあるので、地域の方、スポーツ少年団の方たちと連携するなど、中学校が保護者等の意見を十分踏まえた上で対応すべきなので、そちらに委ねたいと思う。

次に「少人数の集団において、子どものより良い人間関係を作っていくためにはどのようなことが大切か。そのために大人たちはどのように関わって行ったらよいか。」のご意見をいただきたい。

## 委員

過保護であったり、環境が整い過ぎていて、外に出た時に人間関係が上手にできないなどのカルチャーショックが大きいと思う。大人が与え過ぎていて、人間関係づくりができていないように思う。子どもが問題を解決できる力をどうやって育てて行けば良いのか考えてしまう。

## 事務局

私たちは「どういう子を育て、どういう社会人に育てるのか。」そのために、池田町の小規模な地域、小規模な人数の利点はどう生かせるのか。あるいは、小規模ゆえの弱点、表裏一体となるかもしれないが、そのためにどういう取り組みが学校で、家庭で、社会でできるのか。その土台の上で、ご意見を伺いたい。つまり、「池田町で生まれた子どもたちが、池田町で学び、育った子どもたちが、どういう大人に成長していけるのか。私たち社会としては、誇りある子どもたちを育てることができるのか。」そのような視点で、池田町の小ささを生かす、小ささの弱みを克服していくご意見をいただきたい。

## 委員

自分がきちんと自分の想いを持てる、自分で言える子どもを育てて行く。子どもたちに言葉の力をつけて、自分で考えて、自分の言葉で言える子どもを育てる必要がある。そのことによって良い人間関係がつかれるようになると思う。

## 委員長

「地域の人材や環境・産業を教育に生かすためにはどのような取り組みが考えられるか。」のご意見をいただきたい。

#### 委員

池田を生かすことを考えると、木を使った体験的なものか、池田の歴史を深く知っている人や山菜等の授業を行うと池田にとって良いと思う。

#### 委員

2年生の活動も「木のおもちゃ」を使ったものもあり、角材をノコギリで切るウッドスポーツ「木ッター」などのアナログな体験に恵まれており、「まち人授業」とは違うが、中学校のいろいろな行事の中に入ってきている。

#### 委員長

人間関係の固定化を多少なりとも打破できるのは体験ではないか。普段、教室や授業で見ることができないその子の良さが、いろんな体験の中で見えてくる。能楽体験をした時に、鼓の経験をした子がいて、座り方や叩き方を他の子に教えていた。その子の良さを見つけることで、その子なりに地域への理解が進むだろうし、文化・職業に対して職業観等を見つけることができる。地域の環境・文化・産業をこれから取り入れて行く必要がある。

最後に「子どもが自ら成長していけるようになるにはどのようなことが必要か。そのためには、大人はどのように子どもに関わって行ったらよいか。」のご意見を頂きたい。

#### 委員

以前より子どもたち主体の活動が増えてきた。その活動をもう少し先に伸ばすように出来たら良い。例えば「まち人授業」だったら、もっと多方面の、高齢の方から若くて活躍している方、様々な分野の人の話を聞いたりすることで、将来の自分のやりたいことにつながる。

#### 委員

子どもに対して、「生きる力」「課題に対して解決していく力」「生き抜く力」の3本柱を子どもたちに着けてあげるために、教育という場がある。教育の場は学力をつけるのが基本であるが、実際にはそればかりではなく、それを通じて3つの力をつけてあげる場所にしてほしいと思う。地域の方は、生活の場の中で力をつけてあげてほしい。

#### 委員

池田を大好きという気持ちで成長してほしい。他県からの移住者がおられるので、その人たちの話を子どもたちに聞かせてあげたい。池田にどっぷり浸かっていると、池田町の良さが分からないが、池田に惚れてこちらに来た人の話はとても熱くて、そのような話を聞かせてあげる機会をつくると良いと思う。

#### 委員

問題に当たった時に自分で解決する力を着けたいと思っている。大人がしっかり子どもに示せる行動ができているかという「親育て」が一番大事である。

#### 委員長

親を育てるためにはどんなことをすればよいか。

#### 委員

地域のイベントに積極的に親が参加して、やり遂げるところを子どもたちは見ているので、参加する親が増えると良いと思う。

#### 委員

自分で考えて、自分で行動できて、その責任を自分で負える子どもを育てたい。自分が問題に当たった時に、解決できる力を子どもたちに身に着けさせたい。そのことを考えると、教員も教え過ぎない、関わり過ぎないことも意識する必要があることを感じた。

#### 委員

「生きる力」「生き抜く力」が、子どもに一番に持ってほしい力である。また、知識を入れるだけでなく、その知識をどうつなげるのかを学ぶ「深い学び」が大切である。

#### 事務局

「深い学び」については、知識を溜め込むだけではなく、自分が得た知識が自分とどう関わっているのか、社会とどう関わっているのかまでを、子どもが学ぶこと、いわゆるアクティブラーニングが必要であると考えてよいか。これまでにご意見をいただいたように、主体性、人との関わり、深い学びが子ども自らが成長していくことにつながると考えられる。

#### 委員

子どもらの成長のため、小規模校を生かした発表の場（授業）を多く持つことで、自信につながり、社会に出て役に立つこととなる。人前でプレゼンが行える子どもを育てることが今後によいと思う。大人は、子どもに近過ぎず、遠過ぎず、丁度いい距離感で見ることが大事である。

#### 委員

生きる力は体験から学ぶことができると感じた。池田は木があり、林業が盛んであっ

た。移住者の話を聞くのも必要だが、この土地で暮らしてきた方々の話を聞く、一緒に体験をすることで、「こうやって生きてきたんだな。」ということ学べると思う。その時、大人がどれだけ本気で思っているかが重要である。

#### 委員長

子どもの一人ひとりの良さを見つけながら、「生きる力」「自ら学ぶ力」「困難を解決する力」が身に付くようサポートしていく。体験は、子どもの良さを見つける機会となるだろう。小さい規模であっても、一人ひとりの良さを見つけながら、自信を付けさせていけば、社会人として羽ばたくための大きな力となるであろう。その力をつけてあげるときに、子どもに近づき過ぎない「目は掛けても手を掛けない」ことが必要である。「体験」「学び」「自信」の関連性を作り上げて行きながら、大人も一緒になって学んでいけるような“池田町のまちづくり”が将来の子どもたちを大きく支えて行くと感じた。

#### 7 次回開催予定

11月下旬から12月上旬頃の予定

#### 事務局

各委員から発言のあった「主体的で、対話的で、深い学び」というキーワードから、大綱の素案（原案）づくりに着手している。国の機関である中央教育審議会では、様々な議論があり、「主体的で、対話的で、深い学び」をラーニングと呼び、アクティブラーニングを追求すべきではないかとの示しもある。全国でこのような方向で進んでいるようであるが、わが町の教育大綱には示されていないので、「深い学び」もしくは「アクティブラーニング」という言葉を、皆さんのご意見を伺いながら使用していければと考えている。

グループでのプレゼンを行う「共同的学びの授業」にも取り組んでいるが、一度にはできないかもしれないが、共同して、力を合わせながら学びあうという方針は、小さな規模を生かすにはあり得ると考えられる。「体験型」については、早稲田大学の高野教授は「昔の叡智は、未来の科学」という言葉を使い、お年寄りや農林業の技術をただ体験するだけではなく、「昔の叡智がどこにあったのか。」を深く学び、考えていける、自分で解決していける力を付けていくためには、「深い学び」を追求させていく場、「体験」する場にラーニングを取り入れて行くこともあり得ると思う。そのような場合、学校現場に全てを任せるのではなく、社会も一緒になって子育て、教育の現場に携わっていくという流れが見えてくると思っている。

次回には、素案の素案を委員にお示しし、ご協議いただければ幸いかと思っている。

#### 8 閉会